



新型コロナウイルス感染症対策ニュース vol.9

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、県民生活と企業経営、地域経済へと広がっています。現状への対応は重視しつつも、先々を考えると「視野を広げること」「本質的に見ること」が重要となります。

宮城同友会の会員でもある東北工業大学の小祝慶紀氏よりメッセージをいただきました。

「学生のピンチを企業のチャンスへ」

東北工業大学ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科 教授 小祝 慶紀氏

「ピンチはチャンス！」言い尽くされた言葉ではありません。しかし、多くの示唆に富む言葉です。私たちは常にピンチにさらされています。企業を営む経営者の方であればなおさらという場合もあるでしょう。これまでも多くのピンチがあったはずですが、その多くは仕事上のものでしょう。それは、個人や企業組織というミクロな対処が可能で、チャンスへ変えることも可能でしょう。しかし、現在発生している新型コロナウイルス（以下「新型ウイルス」という）の感染拡大というピンチはだいぶ厄介です。個人や企業組織でこの新型ウイルスへ対処できる問題ではないマクロな問題だからです。

新型ウイルスの影響は、就職活動（以下「就活」という）を始める大学3年生にとってもピンチです。NHK「大学生とつくる就活応援ニュースゼミ」のWEBアンケートによると、就活に新型ウイルスの影響が「ある」と82.9%（有効回答数は7,419名）の学生が回答していることからそう言えそうです。それだけ影響が大きく、彼らにとってこれまでにないピンチということです。「説明会中止でスケジュール真っ白」とか「いったいこの先どうなるの・・・」といった学生の声も紹介されています。

では、本学、東北工業大学の現状はどうでしょう。本学は毎年3月の説明会解禁に合わせて、東京や地元企業による合同企業説明会（以下「合説」という）を2日間に渡り開催しています。参加企業は2日間で約340社、参加学生は本学の学部生、大学院生のべ1,500名にもなります。それが今年は、新型ウイルスの影響で中止となりました。さらに、大手就活情報会社主催の、合同企業説明会等のイベントが軒並み中止となり、先に紹介した学生の声と同様な状況です。このように、方向性が見えない学生が本学に限らず、多くいることは十分推察されます。早めに就活を終わらせて安心したいという思惑がもろくも崩れたのです。しかし、これはピンチでしょうか。もちろん新型ウイルスへの不安は、就活とは別な意味でピンチでしょう。でもこれは、日本国民全員のピンチです。

本学の学生には、東京などへの就活ではなく、東北、宮城で採用活動を行っている企業へ就活の中心を変えた学生もいます。学生なりの知恵です。学生の知恵を、今度は皆様の叡智を結集して、学生へのチャンスへと変えてみませんか？それは翻って、企業の求人へのチャンスということにもなります。本学の学生のような学生は少なからずいるはずですが、これは、地元企業にとってチャンスを生み出す機会となりませんか。しかし、現在のピンチをチャンスに変えるには、一企業の一経営者の知恵や力では難しいことは前述したとおりです。経営者としての叡智を結集し、より大きな力とすることで、チャンスへ結びつくのだと考えます。そのために同友会があるのだと考えます。同友会の仲間を信じ、ここは「俺の会社」ではなく「宮城の会社」という気概でピンチをチャンスへ変えていきませんか。

本件に関するお問い合わせは同友会事務局まで。

TEL 022-355-2771 FAX 022-257-3220

最新情報は随時 e.doyu で発信してまいります。

→スマホからどうぞ。



<https://miyagi.e-doyu.jp/edoyumobi/>